

2019年10月25日

### 2019年10~12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

## 消費増税の反動は限定的だが、外需の下振れリスク拭えず

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、9月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

#### 現況

○消費増税前の駆け込み需要により、民生用電器部品や家電量販店で特需が発生した一方、米中貿易摩擦の長期化による世界経済の減速を受けて、全体的に力強さを欠く展開となっている。

#### 今後の見通し

○消費増税に伴う駆け込み需要の反動減が予想されるが、軽減税率やポイント還元などの政府の対策が奏功し、影響は限定的。一方、世界経済の減速による外需の下振れリスクを抱えており、県内産業景気は総じて弱含みで推移するとみられる。

○なお、業種ごとの10~12月期の業界景気見通しは、主要20業種のうち「民生用電器部品」、「住宅」、「観光・レジャー」の3業種が『やや下降』、「家電量販店」が『下降』、残る16業種が『横ばい』。

『順調』が3業種、『普通』が8業種、『低調』が8業種、『不調』が1業種となる見通し

業種	業界景気	
	現況 (7~9月)	見通し (10~12月)
製茶	● → ●	●
食品・飲料	● → ●	●
家庭紙	○ → ○	○
産業用紙	● → ●	●
工作機械	● → ●	●
民生用電器部品	○ → ●	○
自動車部品	● → ●	●
二輪車部品	● → ●	●
建設	● → ●	●
住宅	● → ●	●
大型小売店	● → ●	●
食品スーパー	● → ●	●
自動車販売	● → ●	●
家電量販店	○ → ●	●
運輸・倉庫	● → ●	●
情報サービス	○ → ○	○
外食	● → ●	●
観光・レジャー	● → ●	●
リース	● → ●	●
人材派遣	○ → ○	○

※本件のお問合せ先 担当（須藤 みやび）

## 消費増税の反動は限定的だが、外需の下振れリスク拭えず

県内の産業景気は、消費増税前の駆け込み需要により、民生用電器部品や家電量販店で特需が発生したほか、情報サービス、人材派遣といった内需関連も堅調に推移した。一方、米中貿易摩擦の長期化による世界経済の減速を受け、工作機械で需要減退が鮮明化するなど、全体的に力強さを欠く展開となっている。

今後の見通しについては、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減が予想されるものの、軽減税率やポイント還元などの政府の対策が奏功し、前回2014年の増税時に比べ影響は限定的とみられる。一方で、通商問題を巡る緊張の増大、世界経済の減速による外需の下振れリスクを抱えており、県内産業景気は総じて弱含みで推移するとみられる。

### (1) 業界景気の現況について (2019年7～9月期)

県内産業（主要20業種）の現況（2019年7～9月期）は、『好調』はなく、『順調』が「家庭紙」「民生用電器部品」「家電量販店」「情報サービス」「人材派遣」の5業種、『普通』が「食品・飲料」「産業用紙」「自動車部品」「建設」「住宅」「自動車販売」「運輸・倉庫」「リース」の8業種、『低調』が「製茶」「工作機械」「二輪車部品」「大型小売店」「食品スーパー」「外食」「観光・レジャー」の7業種で、『不調』業種はなかった。

### (2) 業界景気の見通しについて (2019年10～12月期)

2019年10～12月期の景気見通しは、全20業種のうち、消費増税の駆け込み需要の反動減が予想される「民生用電器部品」が『順調』から『普通』へ『やや下降』、同じく駆け込み需要の反動でテレビや冷蔵庫、洗濯機で落ち込みが予想される「家電量販店」が『順調』から『低調』へ『下降』、そして消費増税で購買意欲の低下が懸念される「住宅」が『普通』から『低調』へ『やや下降』となったほか、台風19号の被害のあった「観光・レジャー」が『低調』から『不調』へ『やや下降』となり、残る16業種が『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』16業種のうち、『順調』のまま『横ばい』が続くのは、引き続き荷動きが活発な「家庭紙」、首都圏からの受注が底堅い「情報サービス」、人手不足を背景に需要が旺盛な「人材派遣」の3業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、軽減税率の導入で内食への需要シフトが期待される「食品・飲料」、主力の食品向けが底堅い「産業用紙」、軽自動車を中心に若干の反動減を予想するも輸出が堅調な「自動車部品」、工場やホテルなど大型施設が着工する「建設」、新型車効果などが見込まれる「自動車販売」、食品関連で安定した荷動きが見込まれる「運輸・倉庫」、主力の情報通信機器が堅調な「リース」の7業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、リーフ茶の需要低迷が続く「製茶」、米中貿易摩擦による需要低迷で設備投資への慎重姿勢が強まる「工作機械」、フルモデルチェンジの端境期で市場が振るわない「二輪車部品」、ネット販売との競争激化で衣料品の低迷が続く「大型小売店」、消費増税後のポイント還元制度開始で大手に値下げ圧力の働く「食品スーパー」、軽減税率による内食・中食へ需要シフトが予想される「外食」の6業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

年次		2016年	2017年				2018年				2019年		
四半期		Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月(○は調査月)		10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
業 種 数	好調 ☀	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	2	0
	順調 ○	2	2	3	3	2	2	2	3	4	4	3	5
	普通 ◐	6	8	8	9	8	10	10	10	10	10	11	8
	低調 ☁	11	9	8	8	9	7	7	6	6	6	4	7
	不調 ☂	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全業種の平均階級値	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95	2.90	2.90	3.15	2.90
業 界 景 気 の 『 現 況 』	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
	業 界 景 気 の 『 見 通 し 』	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業 種 数	やや上昇 ↗	2	0	1	0	2	1	1	1	1	1	0	0
	横ばい →	18	20	19	20	18	18	19	18	19	18	19	16
	やや下降 ↘	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	3
	下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（9月調査であれば7～9月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（9月調査であれば10～12月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。  
調査時点…2019年9月上旬  
回答企業…県内主要20業種（224社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2019年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (7～9月)	見通し (10～12月)	生産量 (対比伸び率 前7～9月期)	売上高 (対比伸び率 前7～9月期)	生産量 (伸伸び率 前年同期比)	売上高 (伸伸び率 前年同期比)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前7～9月期対比)	製品価格の動向 (前7～9月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	↘	○	均 衡	適 正	↘	↘	—
食品・飲料	○ → ○	○	↘	↘	→	→	◎	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	↗	◎	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	○ → ○	○	→	→	→	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工作機械	☁ → ☁	☁	→	→	◇	◇	○	供給超過	適 正	→	↘	1.0～8.5
民生用電器部品	○ ↘ ○	○	↘	↘	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	○ → ○	○	↘	↘	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☁ → ☁	☁	↗	↗	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.2～1.0
建設	○ → ○	○	—	↘	—	→	◎	均 衡	適 正	→	→	3.0～10.0
住宅	○ ↘ ☁	☁	—	↘	—	↘	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	○ → ○	○	—	↘	—	↘	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	○ ↘ ☁	☁	—	◇	—	◇	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	○ → ○	○	—	→	—	→	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	→	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外食	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	均 衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	☁ ↘ ☂	☂	—	↘	—	↘	—	供給超過	—	↗	→	—
リース	○ → ○	○	—	↘	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	↗	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ◇	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ○	横ばい →	横ばい (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ◇	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

# 主要業種の現況と10～12月期の景況見通し

業種	業界天気	緑茶需要が低迷する中、世界お茶まつりを回復への起爆剤に
製茶		<p>(現況)・製茶問屋の売上高は、猛暑により需要が減退した前年に続き低迷した模様。二番茶の価格が伸びず、生産を見合わせた茶農家もあった。こうした中、リーフ茶需要の減少をドリンク向けの抹茶等で補った茶商もみられた。</p> <p>(見通し)・製茶問屋の売上高は厳しい状況が続く見込み。歳暮など贈答需要の回復が見込みにくい中で、若年層や海外など新たな市場の開拓が求められる。11月に開催される「世界お茶まつり2019・秋の祭典」等を通じて消費者のニーズを汲み取り、需要喚起につなげていくことが期待される。</p>
	→ 	

業種	業界天気	内食への需要シフトに期待するも、収益は悪化見通し
食品・飲料		<p>(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移した模様。ただし、不漁によるビンナガマグロの高騰で収益面は悪化したとみられる。飲料缶類は、梅雨明けの遅れにより需要が落ち込み、生産量は前年比▲5%程度下回った模様。</p> <p>(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、消費増税で内食需要が高まる一方、増税による購買意欲減退で、全体では前年並みを予想。収益面は、原材料の高騰による収益悪化懸念があり、一部のメーカーが値上げを実施。飲料缶類は、長期予報で高めの気温が予想されており、生産量は前年を上回る見通し。</p>
	→ 	

業種	業界天気	流通在庫の放出で、タイトだった需給も正常化
家庭紙		<p>(現況)・家庭紙の生産量は前年をやや上回った。消費増税前に流通各社が欠品を回避すべく在庫確保に動いたことで、夏の不需要期ながら荷動きは活発だった。価格面では、再生トイレ紙・ティッシュとも大手主導で進めてきた値上げが浸透した。</p> <p>(見通し)・家庭紙の生産量は前年並みで推移する見込み。消費増税後の一時的な買い控えに加え、流通在庫が市場に放出されることで、タイトだった需給が正常化する見込み。ティッシュは輸入品の増加で品不足も解消される見込み。価格面は、再生トイレ紙・ティッシュとも現行水準を維持するとみられる。</p>
	→ 	

業種	業界天気	消費増税の影響は軽微だが、若干の反動減を予想
産業用紙		<p>(現況)・産業用紙の生産量は前年をやや下回った模様。段ボール原紙は、7月の天候不順で青果物や飲料が動かず、全体でも前年を割り込んで推移した。白板紙は、食品や医薬品向けが堅調に推移し、前年並みの水準を確保した。</p> <p>(見通し)・産業用紙の生産量は前年をやや下回って推移する見込み。段ボール原紙は、主力の食品向けは底堅いものの、消費増税後の買い控えの影響で全体では若干のマイナス予想。白板紙も前年をやや割り込む見込み。ただし、ポイント還元などの施策が奏功し、前回の増税時に比べ影響は軽微とみられる。</p>
	→ 	

☀ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	設備投資への慎重姿勢強まり、内外需とも回復見通せず
工作機械	☁ → ☁	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲30～35%下回って推移した模様。長引く米中貿易摩擦の影響を受けて、企業の設備投資に対する慎重姿勢が一段と強まっている。品目別では、主力の自動車向けの受注が弱まっている。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を▲30%前後下回る見通し。内・外需とも、回復のきっかけが見通せず、厳しい状況が続くそう。外需は中国市場に加え、欧米市場でも減速の見通し。内需も、設備投資時期の先延ばしなど慎重姿勢が強まっている。

業種	業界天気	増税後の反動で、家庭用空調や冷蔵庫、洗濯機は前年を下回る
民生用電器部品	○ → ◐	(現況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税前の駆け込み需要で押し上げられ、記録的猛暑で過去最高だった前年に近い水準で推移した。冷蔵庫や洗濯機も増税前の駆け込み需要で前年をやや上回った。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、増税前の駆け込み需要の反動で、前年を下回る見通し。冷蔵庫や洗濯機も増税後の需要低迷が危惧され、前年を割り込む見込み。一方、業務用エアコンは、小中学校向け特需に支えられ、過去最高だった前年並みで推移するとみられる。

業種	業界天気	消費増税の影響もあり、生産量は前年をやや下回る見込み
自動車部品	◐ → ◐	(現況)・全国の自動車生産台数は、前年を+3%程度上回った模様。国内販売は、軽自動車为好調に推移。輸出も、北米向けを中心に前年実績を確保した。県内部品メーカーの生産量は、全体としては前年をやや下回ったとみられる。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。輸出は堅調だが、国内販売は、10月に実施された消費増税の影響もあり、軽自動車を中心に前年をやや下回るとみられる。県内部品メーカーの生産量は、前年をやや下回って推移する見通し。

業種	業界天気	県内の二輪車部品生産は、前年比減少を避けられず
二輪車部品	☁ → ☁	(現況)・全国の完成車生産台数は、前年実績を下回って推移した模様。一部完成車メーカーで昨夏の生産移管に伴う反動増があったものの、主力の大型車市場が引き続き低迷した。県内部品メーカーの生産量も、前年実績を下回ったとみられる。 (見通し)・全国の完成車生産台数は前年を割り込む見通し。2020年モデルの生産が動き出す時期だが、20年はフルモデルチェンジの端境期になりそうで、市場が振るわない中、生産台数の上積みは難しいとみられる。県内二輪車部品の生産は、前年比減少を避けられない見通し。

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	公共は反動減、民間は県外企業の投資が進み前年水準を確保
建設	○	(現況)・県内の公共工事契約額は、前年をやや上回った模様。県、市町関係で防災・減災関連工事の契約が進んだ。民間の工事費予定額は、前年を下回った模様。前年は、工場や物流関連施設の新設が相次いだことから、反動減となった。
	→	(見通し)・県内の公共工事契約額は、前年をやや下回る見通し。上半期に契約額が大きく伸びたことから、反動減が想定される。民間の工事費予定額は、前年並みで推移する見通し。大手医薬品メーカーの製造棟やリゾート運営企業の高級ホテルなど、県外企業の大型施設が着工となる見込み。

業種	業界天気	持家は割高感から前年割れ、貸家も投資意欲が改善せず低迷
住宅	○	(現況)・県内の持家新設着工戸数は、前年並みで推移した模様。3月末までの既契約分の注文住宅の着工が進んだ。貸家は、前年の水準を割り込んで推移した模様。建築業者の不正問題などを受けて、新規投資に慎重になるオーナーが増えた。
	→	(見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年を下回る見通し。消費増税に伴う住宅の割高感から、消費者の購買意欲が低下するとみられる。ただし、前回の増税時(2014年4月)に比べて、着工数の落ち込み幅は小さくなる見通し。貸家は、オーナーの投資マインドが改善せず、前年をやや下回る見通し。

業種	業界天気	百貨店は衣料品の低迷、総合スーパーは値下げ圧力が懸念材料
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年並みで推移した。百貨店は、化粧品などの駆け込み需要が発生し、前年をやや上回った。総合スーパーの販売額は、トマトやレタスなど一部の生鮮食品で単価が下落し、前年をやや下回った。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。百貨店は、アパレル会社の直販サイトとの競争激化により、衣料品の低迷が続く模様。総合スーパーは、キャッシュレス決済のポイント還元策を実施する地場食品スーパーとの競合上、ポイント差額分の値下げ圧力がかかるとみられる。

業種	業界天気	キャッシュレス決済のポイント還元制度で大手に値下げ圧力
食品スーパー	☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回った模様。青果や精肉は、記録的猛暑で単価が高騰した前年を下回った。酒類などを除く食品は軽減税率の対象で消費税率が据え置かれるため、駆け込み需要は限定的だった。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。販売ボリュームは大きく変わらないものの、政府によるキャッシュレス決済のポイント還元制度が始まるため、制度の対象外である大手事業者も、対象店舗との差を補うために自己負担での値引きを迫られる模様。

☀ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	駆け込み購入の盛り上がりを欠いた分、反動減も限定的
自動車販売		<p>(現況)・県内の新車販売台数は、前年を+9.6%上回った。消費税率引上げ前の駆け込み購入は前回引上げ時ほど多くなく、登録車前年比+7.0%、軽自動車は同+13.1%と、大幅な伸びとはならなかった。</p> <p>(見通し)・県内の新車販売台数は、駆け込み需要が盛り上がりを欠いたこと、夏以降、新型車が投入されること、10月以降、自動車取得税が廃止されることなどから、大きな反動減は避けられるとみられ、登録車、軽自動車とも前年をやや下回る水準で推移する見通し。</p>

業種	業界天気	消費増税前の駆け込み需要の反動で、前年を大幅に下回る
家電量販店		<p>(現況)・県内の家電販売額は、前年を上回った。テレビや洗濯機の販売額は、消費増税前の駆け込み需要が顕在化、前年を+2~3割上回った。一方、買い増し需要の一巡した掃除機は、駆け込み需要の発生も限定的で、前年水準に届かなかった。</p> <p>(見通し)・県内の家電販売額は、前年を大幅に下回る見通し。テレビや冷蔵庫、洗濯機などは、駆け込み需要の反動で落ち込みが懸念される。季節商品の空気清浄器や加湿器は、前年にインフルエンザの流行に伴って爆発的に売れた反動で、今期は伸び悩むとみられる。</p>

業種	業界天気	輸送用機器などの荷動きが鈍化し、輸送量は前年を下回る
運輸・倉庫		<p>(現況)・県内のトラック輸送量は、天候不順などの影響から食料品が伸び悩み、全体では前年をやや下回った模様。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械、紙・パルプの荷動きが底堅く、前年を+3%程度上回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・県内のトラック輸送量は、食料品は堅調に推移するとみられるが、消費増税の影響から輸送用機器や電気機械などの荷動きが鈍化すると見込まれ、全体では前年をやや下回ると予想される。倉庫の入出庫高については、食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年水準を確保できる見通し。</p>

業種	業界天気	首都圏からの受注は堅調、人手不足も変わらず
情報サービス		<p>(現況)・全国の売上高は前年を上回った模様。主力のソフト開発は、消費増税対応のシステム更新等の特需が発生し、受注は好調に推移した。県内も、首都圏からの受託業務や増税対応業務が順調に推移した。</p> <p>(見通し)・全国の売上高は前年をやや上回って推移する見通し。県内は、増税対応のシステム更新の一部が10月にずれ込んでいるほか、製造業関連の受注も底堅く推移している。慢性的な人手不足は相変わらずで首都圏からの受注も堅調なことから、売上高は前年を上回る見込み。</p>

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7~9月期、下段が10~12月期

業種	業界天気	全体ではマイナスも、ポイント還元対応店はプラスか
外食		(現況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや下回った。天候不順で外出機会が減少し、来店客数が落ち込んだ。天候不順・異常気象の影響で、質量の両面で例年並みの食材確保が難しく、仕入価格の上昇により収益が圧迫された。
	→ 	(見通し)・県内主要外食店の売上高は前年をやや下回る見通し。外食需要の総量は、消費増税に伴う節約指向が顕在化するため、内食・中食に需要を奪われる形でやや縮小するとみられる。ただし、ポイント還元率5%の個人店には、非対応店や還元率2%の大手チェーン店から顧客が流れることが想定される。

業種	業界天気	台風19号の余波で前年比マイナスは避けられず
観光・レジャー		(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。国内需要は消費増税を控えて節約指向が顕在化し始め、7月の長雨・8月の猛暑・9月の台風と、天候的にも旅行意欲を削がれる状況が続いた。
	→ 	(見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年を下回る見通し。国内需要は、ラグビーW杯がプラスに寄与するものの、伊豆地区では台風19号の被害を受けた施設があることに加えて、東日本全体が被災したため、1カ月程度は旅行マインドが盛り上がりにくい状況が続く模様。

業種	業界天気	製造業を中心に企業の投資意欲は低調で、前年をやや下回る
リース		(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回った模様。消費増税前のPOSレジの入れ替え需要が顕在化するなど、主力の情報通信機器が伸長した。一方で、工作機械は設備投資が伸び悩み、前年を下回った模様。
	→ 	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回る見通し。不安定な海外情勢を背景に、製造業を中心とした企業の投資マインドは低調で、新規投資が減少するとみられる。事業者間では、案件獲得に向けたレート競争が激しさを増しており、厳しい市場環境が続く見通し。

業種	業界天気	販売や営業、事務、ITなどの分野で派遣需要が堅調に推移
人材派遣		(現況)・県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を+3%程度上回ったとみられる。製造、販売、事務、ITなどの分野で旺盛な需要が続いており、人手不足を背景に派遣社員の需要も伸び続けている。
	→ 	(見通し)・県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回って推移する見通し。販売や営業、事務、ITなどの分野で人手不足が続くとみられ、派遣需要は堅調に推移するとみられる。ただし、派遣先のニーズを満たす人材を思うように確保できないという供給側の要因で、伸びは限定的となる見通し。

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

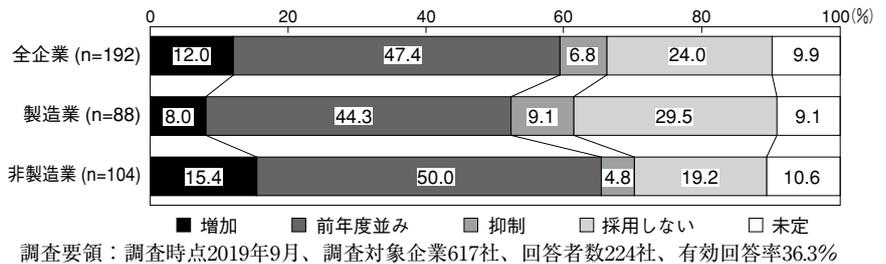
ウォッチング

新卒者の採用「増加」企業は製造業で減少

2020年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、19年度より「増加」とする企業が12.0%と前年度（17.9%）を▲5.9ポイント下回った。「前年度並み」（47.4%）、「抑制」（6.8%）は前年と同水準だったものの、「採用しない」は24.0%と前年度（15.9%）を+8.1ポイント上回った（図表1）。

業種別では、製造業で「増加」方針が8.0%と、前年度（18.0%）より▲10.0ポイント減少、「輸送用機械器具」（17.4%）で前年度比▲12.2ポイント、「電気機械器具」（9.1%）が同▲19.5ポイントと減少幅が大きかった。非製造業では「増加」と「前年度並み」を合わせて65.4%と前年（59.6%）を上回り、新卒需要は底堅いとみられる。

図表1 静岡県内企業の新卒者の採用方針



特別調査

消費増税に伴う駆け込み需要があった企業は45.3%

消費増税に伴う駆け込み需要の動きがあるとの回答は計45.3%と前回調査（2019年6月、43.3%）と同水準であり、そのうち「わずかにある」が34.4%と大勢を占めた（図表2）。業種別では、欠品回避の増産があった「パルプ・紙・紙加工品」（68.7%）で最も多く、「卸・小売業」（63.6%）、「建設業」（57.1%）、が続いた。一方、「食料品」「運輸・通信業」「ホテル・旅館業」で動きがあるとの回答は3割未満にとどまった。

図表2 消費増税に伴う駆け込み需要の動き（業種別）

